

牛尾梅林

—農の魅力をつたえる商空間計画—



敷地



佐賀県小城市は、佐賀平野の西端にあり、佐賀市に隣接している地域である。北部には天山山系がそびえ、中央部は肥沃な佐賀平野が開けている。また、南部には農業用排水路のクリーク地帯が縦横に広がり、有明海に面している。小城市の特産品として、みかんやアスパラガス、米などの農産物から芦刈のりやカキなどの海産物、小城羊羹や日本酒などの加工品、鯉料理という名物料理と幅広くある。

対象敷地は佐賀県小城市小城町にある牛尾山の頂上付近の土地とする。敷地の周辺には、約5千本にも及ぶ梅が咲き誇り、2月下旬から3月上旬には梅の香りにつつまれ、一足早い春を体感することができる。また、敷地からの眺めもよく眼下に佐賀平野や遠く雲仙普賢岳を望むことができる

敷地概要	敷地面積	1908.5m ²
	建蔽率	60%
	容積率	200%

社会背景

近年、日本では農業者の高齢化や後継者不足による農業人口の減少が主な原因となって耕作放棄地の増加が問題視されている。この問題解消の糸口の一つとして地産地消の取り組みに注目する。

地産地消とは、地域で生産されたものを地域で消費する活動のことだが、この活動を通じて、農業者と消費者を結びつける取り組みであり、これにより、消費者が生産者と『顔が見え、話ができる』関係で地域の農産物・食品を購入する機会を提供するとともに、地域の農業と関連産業の活性化を図ることと位置づけられている

提案

地産地消の取り組み

地産地消の取り組みとして直売所での地場農林水産物の直接販売や地場農林水産物を活用した加工品の開発、学校給食や社員食堂での地場農林水産物の利用、地域の消費者との交流や体験活動など様々な取り組みが展開している。また、農家民宿や農家レストランに取り組む農業経営体も多くある。

地産地消の取り組みの効果として生産者と消費者の結びつきの強化と地域の活性化に着目する。生産者と消費者の結びつきが強化されることにより、消費者の地産農林水産物への安心感や愛着心が深まり、地産農林水産物の消費を拡大し、地元の農林水産物を応援することになり、地域の活性化へとつながる。地元の農業を活性化させることで離農率の低下、耕作放棄地の減少へとつながる。生産者と消費者の結びつきの強化は生産者も消費者ニーズを知ることでもでき、消費者ニーズに対応した生産が展開できる。

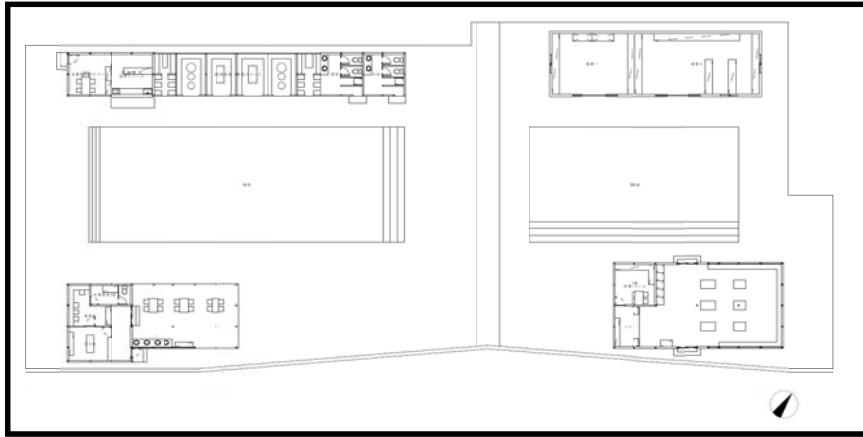
提案

地産地消の取り組みの効果は直ちに発生するものではなく、継続していくことが大切である。さらに、自給自足的な地産地消だけでなく、価値観が多様化する現在にふさわしい形で地産地消を広げていくことが必要であり、地産地消を幅広く、弾力的に捉えて推進する必要がある。そのために、消費者と生産者とのさらなる情報交換の場、交流の場をつくる必要がある。また、生産者と消費者のニーズの合致させる機会や食育の機会を得ることができる空間、地域の食材を活用した料理の提供や積極的な商品開発ができる空間が重要だと考える。また、多くの人が農業を魅力的に捉えられる空間を設計することで、地元の農業を活性化し、それは地元そのものへの活性化へとつながるのではないかと考える。

配置計画

『人と農がつながる場所』

積極的なコミュニケーションを図ったり、収穫を楽しんだり、様々な過ごし方ができる
大きく梅林が広がっており、季節や自然、農業を楽しむことができる



梅林

梅の木は横に広がり育っていく木である。そのまま植えると敷地が木の影で暗い印象をあたえ、梅の木で視線が通りにくくなるので地上から 1.6 m 下げることによって視線や風、光の通りを確保する。

また、地上から下げることでエリアの区分をしやすくなる効果もある。

梅花の時期は花見が、収穫時期には梅狩り体験や梅酒・梅ジュースづくりの体験などができる。

管理棟横の大きく開けた広場では、通常時は南側に広がる佐賀平野の眺めを楽しむスペースや梅酒や梅ジュースづくりなどを体験する青空教室、収穫祭などのイベントスペースなど用途は様々。

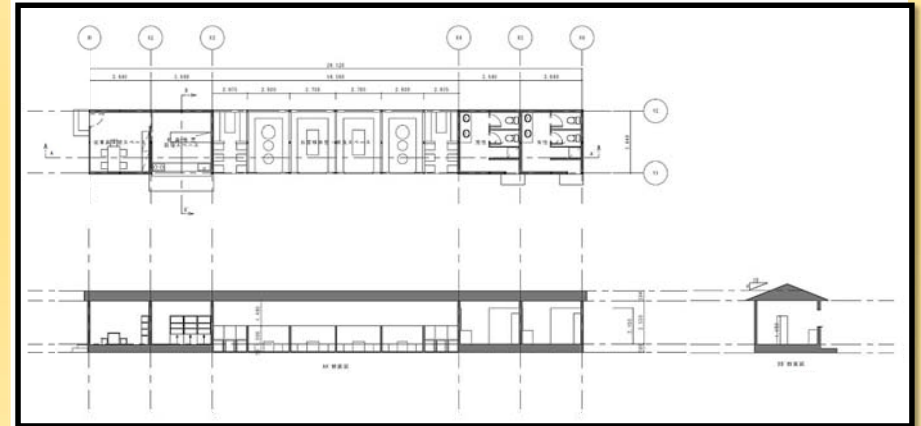
果物畑

牛尾山にある敷地の場所は日当たりもよく他の果物や野菜も梅同様よく育つ。そこで梅の時期ではない時期で育つ果物を育てることで梅シーズン以外のシーズンでも魅力のある地にし、集客効果を狙う。

倉庫

果物畑の横、北側にある倉庫には農業に必要な道具や収穫物、梅干しや梅酒などの長期間保存するものを保管する。

飲食店舗



カフェ

休憩・飲食スペース

梅林・果物畑

梅林で梅を楽しみ、カフェで食を楽しみ、休憩・飲食スペースで季節・風景を楽しむ

穏やかな時間の中で農の流れ、自然を感じることができる

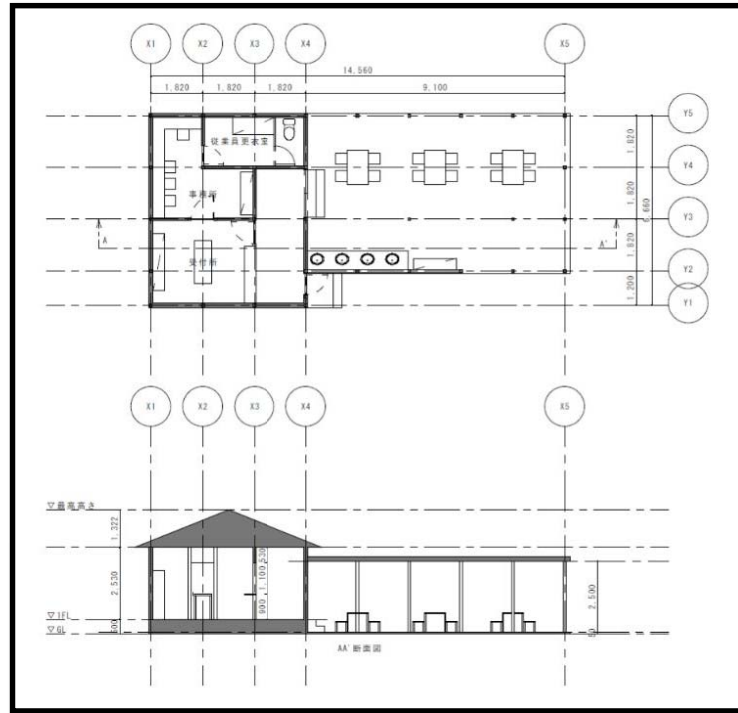
カフェ

梅林で採れる梅や果物畑で採れた果物を使ったジュースやスイーツ、酒類などを販売する。季節によって提供する商品が変わる楽しみがある。

休憩・飲食スペース

梅狩りなどの収穫体験中や後の休憩や狩った果物や買った商品を飲食するスペース。

管理棟

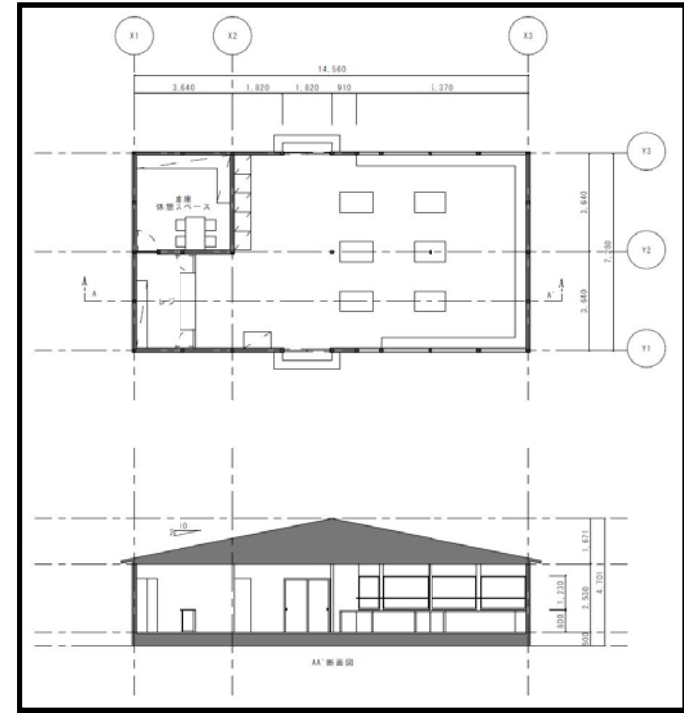


これから畑をしようとしている人、今育てている野菜の育てるコツ、この果物のおいしい食べ方など大きな疑問・質問から小さなものまで相談できるようにすることで消費者と生産者の交流の場、農家同士の交流の場になり、新たな関係の形成や新たな発見につながる空間

休憩・コミュニケーション空間では、農業に関する相談をすることができ、新たなコミュニティを形成できる空間である。農業に関することを学べる空間。

受付では、梅狩りをする際の注意事項や狩った梅の売買、イベントなどに対応する。掲示板には梅の活用方法や調理法、農業に関する情報などを掲示する。

店舗



商店舗では、主に佐賀産、小城産の加工品、梅製品を販売する。

南側と北側に窓を大きく設置することで採光し店内を明るい印象にする。また、外の景色とつながることで解放感や季節感が店内で感じられる。

出入口を2つ設けることで商店舗だけを目的としてくる人とその他の施設を目的としてくる人の動線を分けることができる。

加工品例) 果実酒 (梅酒やゆず酒など)

ジャム

ジュース

缶詰



来たばかりの人

梅狩り後の人

